

船主の大邸宅

高良家は、第二次世界大戦のとき慶良間への艦砲射撃の中を残った、古い建物の一つです。高良家の歴史は、19世紀後半にまでさかのぼります。高良家はこの時代に、中国貿易で財を成した船主、仲村渠親雲上(なかんだかりパーチン)が建築しました。慶良間では、大きな家に対する総称を「船頭主家」と言い、船の船長を務めるということは、財を成す方法でした。『唐儲け』という言葉があったほどです。もともとの藁葺き屋根は、地元の経済がカツオの需要のおかげで好景気を経験していた20世紀初頭に、赤い屋根瓦に置き換えられました。厚い周囲の外壁に、切り取られたサンゴ礁がどれくらいぴったりと組み合わせられているか、また角に達するに従い鮮やかになる壁自体の曲線に気付きましょう。これは高度な職人技の域です！

風よけと魔除け

平屋建てのこの家は、強靱な壁の裏に低く鎮座し、赤い屋根瓦はしっかりと白漆喰で固定されています。これらは台風の激しい風からこの家を守るための予防手段です。この家には部屋が5つと台所が1つあります。梁には朱色で塗られた跡があり、天井の羽目板は、かつての内装がかなり派手なものであったことを示し、力強く真っ直ぐ成長する木であるチャーギ（マキの木）が使われていることは、持ち主の繁栄を表す証拠です。家の前には井戸があり、裏手には倉庫と豚小屋があります。ヒンプン（入口にある大きな直立する壁）は、家を隠し、邪悪な魂を追い払うために建っています。

高良家は、第二次世界大戦の被害を受けました。サンゴで造られた壁にできた榴散弾の跡や、家の中にある木製の柱にいくつか引き裂かれた跡があることに気が付きますが、世紀が変わった今も耐え残ります。高良家は、1988年に国の重要文化財に指定されました。

営業日：月曜日と年始を除く、毎日 9:00～17:00

入場料：大人 300 円、子ども 160 円